

じんけん探訪50

誰もが住みよい三豊市をめざして 差別をなくそうー新しい法律や判決など

8月は同和問題啓発強調月間です。今回は、差別解消に向けた新しい動きなど、同和問題をはじめ最近の人権状況を紹介します。人権問題の理解を深め、差別のない誰もが住みやすい三豊市づくりを進めましょう。

「推進会議」が総会開催

香川県人権啓発推進会議（会長浜田香川県知事）の総会が5月に県庁で開かれました。総会では、新年度事業方針などを決定し、浜田会長が再選しました。推進会議は県や市町教育団体、企業や経済団体、県農協や自治会など各種団体で構成され、同和問題などの人権問題を解決するために県民総参加の啓発活動をしている団体です。

主な事業は▽ポスター掲示やテレビCMなど（8月および12月の人権週間）▽同和問題講演会（8月3日）▽じんけんフェスタ（12月3日）▽インターネット監視（部落差別などを助長する差別書き込みの監視と削除要請）▽地元プロスポーツ組織と協力した啓発活動などです。

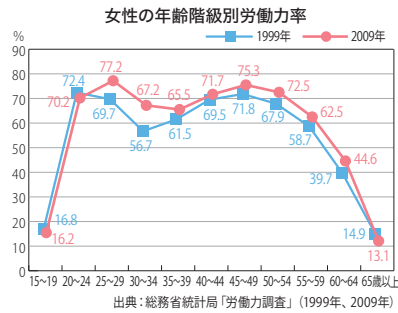
三豊市企業人権・同和推進協議会（林茂樹会長、112事業所加盟）も6月に総会を開

目指せ男女共同参画社会

No.48

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とれていますか？

自分の能力を発揮して仕事をする。幸せな家庭生活を送ること。その両方が充実してこそ毎日をイキイキと過ごせます。しかし、仕事と家庭の両立は、難しいのが現状です。



上のグラフのとおり、女性の年齢階級別労働力率は、出産を機に離職する女性が多い「30～34歳」と「35～39歳」を底としたM字カーブを描いています。

働く女性にとって、家事・育児・介護は心身に大きな影響を及ぼしています。「共働きであれば、家のごとも男女が協力する」といった意識改革が必要です。また、企業では、仕事と家庭を両立できる環境づくりが求められます。下記のサイトでは、「仕事と家庭の両立支援に取り組む企業の事例集」や「仕事も育児も両立している女性の体験談」、「育児や介護を支援する制度」について紹介されています。

仕事と家庭、両立しましょう！  
▼問い合わせ  
企画財政課 ☎73・3010

両立支援のひろば 検索



▲講話を真剣に聴き入る参加者

横浜地裁 差別図書を出版禁止

「示現舎・鳥取ループ」という団体が図書「復刻全国部落調査」を発売しようとした件で3月28日、横浜地裁は出版、販売、頒布の禁止および回収の仮処分を出しました。原本は戦前に発行されたもので全国の被差別部落の地名、戸数、人口、職業、生活状態が記載されています。1975年に同様の図書「部落地名総鑑」が販売されて企業が購入していたことが発覚、「結婚や就職の差別を助長する」として法務省は図書回収に乗り出し、焼却処分した経過があります。

あと2か月!!

瀬戸子の毎々日記

栗島のみんなで全力サポート 島の思い出が詰まった作品に

6月23日、梅雨の合間の蒸し暑い屋下がり。日々の笑学校（旧栗島中学校）には、額に汗をにじませながら作品づくりのお手伝いをする、島の皆さんがいました。栗島では4月から6月まで、2人の芸術家が瀬戸芸作品を制作していました。その一人、青木春菜さんは、海員学校や旧栗島中学校など栗島の古い建物をモチーフにした張子の作品を作っています。この張子づくりを島の皆さんは当初からサポート。張子の元になる竹組に新聞紙と和紙を貼る工程は、多くの人手がいる作業でした。それぞれが自分の空いている時間を見つけて、毎日10人ほどの人が手伝っていたそうです。

この日は、大きな張子の裏に写真を貼っていく作業をしました。島の人人々から集めた白黒やカラーの写真には、一枚一枚に当時の思い出が詰まっています。「これ、男前がようけ写ってる」、「海員学校の運動会は楽しかったなあ」。写真を貼りながら、よみがえる懐かしさ。青木さんの作品に、栗島ならではの物語が加えられた一日でした。



芸術家の青木さん(左)と、この日お手伝いに来ていた島の皆さんは、毎日の作業で息ぴったり！他にも島民約30人が作品づくりに協力しています



▲栗島神社がモチーフの張子の裏には、百手祭りの写真を貼っていきま



写真に知り合いが写っていないか、つい探してしまいます



「これは海員学校の宿舍やな」と写真には一言コメント付き